



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第25号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎聖書からのメッセージ：「神の怒りがとどまる」エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く：進化論の誤り21「ファールはダーウィンの進化論に反対した」
- ◎聖書と日本の風習「靴を脱ぐこと、洗足（足を洗うこと）」
- ◎詩篇を読む：「神の言葉を愛する」
- ◎キリストを信じた体験談：知恵
- ◎聖書に関する偉人のことば：内村鑑三
- ◎ご案内：聖書贈呈

<聖書からのメッセージ>

「神の怒りがとどまる」by エレミヤ

”ヨハネ3:36 御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。”

本日は「神の怒りがとどまる」との題でメッセージしたいと思います。上記テキストに基づき見ていきたいと思ひます。

「御子を信じる者は永遠のいのちを持つ」

御子とは誰かというといエス・キリストのことです。キリストは神の唯一の子という意味で「御子」と表現されるのです。さて、ここでは、キリストを信じる時得られる大事なことについて、すなわち、

それを信じた人は永遠の命を持つ、ということが描かれています。キリストを信じる時、永遠の命を得る？聞いたことのない言葉かもしれません。説明しましょう。聖書によるなら、人の死後の運命は2つに分かれます。

その2つとは、簡単に言うならよくいわれる天国と地獄の区分です。それはこんな説明になるでしょうか。すなわち、死後ある人々は、神により復活するのにふさわしいと認められます。それで、死後復活して復活のからだとともに永遠の命を持つようになります。永遠の命ということばは聞きなれないでしょうがそれは、今私たちの持っている有限の寿命のからだとは違う体、命のことです。すなわちすぐ老いたり、弱ったり、消滅していく肉体や命でなく、永遠にまで生きることのできる肉体と魂が死後与えられる、ということなのです。

「神の怒りがとどまる」エレミヤ

さて、死後、もう一つの運命に入る人々があります。彼らは永遠の命を得るにふさわしいとは神にみなされず、それゆえ復活のからだも永遠の命も得られません。逆に死後、火の池に投げ込まれます。そこで、彼らは自分が生きている間に行った罪を償うべく罰を受けるようになります。この2つです。これらは、あまりにも両極端な結末ですが、聖書によるならば、人の死後にはこの2つしか選択肢はないのです。2択しかないのです。それ以外の選択肢、死後「人は無になる」などの選択はないので、誰も彼もこの2つの運命のどちらかに分類されるようになります。

さてそれでは、一体その区分は何をもってするのでしょうか？一流の学校に入るかどうかはテストの点数の善し悪しで区分されますし、オリンピックの陸上の金メダルを得るための区分は一番でゴールするかどうかです。それでは、聖書のいう天国、地獄の死後の区分は、何をもってなされるのでしょうか？その区分はお金のあるなしでも、学校の成績のよしあしでも、美人、不美人の差でも、背の高さ、はたまた、年齢や人種の区分でもありません。そうではなく、上記テキストに「御子を信じる者は永遠のいのちを持つ」と書いてあるように、キリストを信じる人が死後復活して永遠の命を持つようになるのです。その人がお金がなくても、学校の成績が悪くても、はたまた不美人でも、年寄りでもさらにもし、刑務所に入るような犯罪を犯した過去があったとしても問題ありません。その人が神の御子であるキリストを信じるなら誰でも死後永遠の命を得るようになります。

「御子に聞き従わない（信じない）者は、いのちを見ることなく」

しかし、対照的にその人がキリストを信じないならここに書かれているように、永遠の命を得ることはありません。逆に死後火の池で自分の罪の罰をつぐなうこととなります。たとえ、その人がどんなに金持ちでも、学校の成績がよくても、大臣をしていても、ハンサムであっても、はたまた、生涯でたくさん

の賞状をもらっていてもキリストを信じないなら、そうなるのです。すなわち、私たちの死後の区分はその人がキリストを信じるかどうかで異なるのです。そんな区分の方法は理不尽だという意見もあるかもしれませんが、しかし、人を創造した方は神であり、また人の死後の運命を決めるのも神であることを知りましょう。私たちはその決定を尊重すべきだと思います。ある人は神が用意したキリストという方を信じ、また神が聖書で語っておられる、罪を許されるためにキリストを信じるという方法を尊びます。これは本当のことだと受入れ、そして結果、神から喜ばれ永遠の命を得ます。

しかし、ある人々はそのキリストという方法を否定し、信じず、受入れません。そのように語られる神を信じることもせず、結果死後神から罰を受けるのです。ここには何らのえこひいきも不公平もないのです。人種、お金の有無、年齢、学歴の差などの区分などまったくありません。それがどの国の人でもどの年齢の人でも寝たきりの病人でもその人がキリストを受入れるなら、何らの代価も払わず永遠の命を得られるのです。これは大変公平な方法であり、誰にとっても平等な方法であることがわかるのです。

神様は自分が備えた方法、キリストという方法を疑うことなく受入れ、信じる人に対しては彼が永遠の命を与えるようにされました。このようにする神様の気持ちは察することができます。人間だって、自分の提案を受入れず、鼻で笑って相手にもしない人、その上インチキ呼ばわりしたりする人に大事なプレゼントをあげたいとは思わないでしょう。逆に信じがたい状況であっても自分の方法を信じてくれる人、文句もいわず、受入れてくれる人には、大事なプレゼントを与えたいと思うでしょう。神様もまったく同じなのです。神は、自分の方法を受入れ、尊重し、神の定めた方法であるキリストという方法を受入れ、すなわちキリストを信じる人にも、大事な永遠の命を与えようとされているのです。これは、全く公平な方法と思われず。

「神の怒りがとどまる」エレミヤ

“御子に聞き従わない(信じない)者は、いのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。”

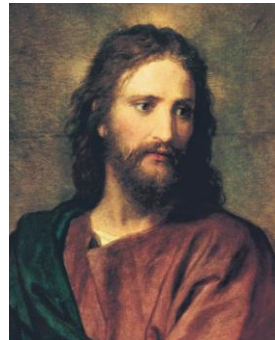
さて、ここでは、御子であるキリストを信じない人は永遠の命を得られない、というだけでなく、その人の上に神の怒りがとどまることが描かれています。このことは本当です。たとえば無神論共産主義の国です。共産主義は唯物論、進化論を基本としてできた政治形態であり、世の中は物質だけでできている、目に見えない神など存在しない、キリストなどインチキだと、公けに神やキリストを否定した国なのです。このように公に神を否定し、キリストを否定し、これらの国に何か良いことが起きたか、という何とも良いことは起きません。

逆にこれらのキリストを否定した国の上には神の怒りがとどまり、驚くべき悲惨な状況になりました。ソ連、中国、カンボジア、北朝鮮など共産主義を受入れた国は、その後、これ以上はないような悲惨な国となり、何百万、何千万人もの国民が命を失いました。これは歴史的な事実です。実はこのような視点に立つなら、この日本もキリストを否定して神の怒りがその上にとどまっている国の様に、私には見えます。日本は今でこそ、海外では、おもてなしの国と知られているかもしれませんが、江戸時代の中世においてはそうではありませんでした。日本はその頃、次々と宣教師やキリシタンを残酷に殺す恐るべき悪魔の様な国としてヨーロッパでは有名だったのです。

江戸時代の間、キリシタンは日本中で迫害され、住むところを奪われ、命を奪われてきたのです。何十万人以上ものキリシタンが殺されました。今のイスラム国の様に残酷な方法で日本はキリシタンに対して殺害を行ってきたのです。この国はキリストを信じないだけでなく、逆に神に対して喧嘩を売るような行いをし、キリストを信じるキリシタンを皆殺しにしようとしてきたのです。それで日本には神の怒りがとどまるようになりました。

太平洋戦争では、日本の100以上の都市が空襲で焼かれ、100万人を超えるような人々が犠牲になりました。その空襲は理不尽ですが、しかし、かつてはそれらの都市で多くのキリシタンが命を奪われたのです。また、日本は世界のどの国にも落とされたことのない原爆を2つも落とされ、被害を受けました。さらに最近起きた2011.3.11原発爆発においては、福島で同じく放射能の被害を受けました。この放射能による被害は日本全土に及び、日本中の水といい、大気といい、土壌といい、汚染されてしまったのです。これは神の愛の発露でしょうか？いいえ、そんなはずはありません。神の怒りがこの国にとどまり、爆発しているようにしか見えません。いつまでもかたくなな歩みをするなら、もっとろくでもないことがこの国に起きるように私には思っています。

さて、このようにざっと見てきたように、私たちが神を信じようと信じまいとこの地球も人間も神が創造されたものであり、国の歴史も興亡もみな、神のことばに基づいて起きることを知しましょう。そして、これは個々の人にとっても同じなのです。私たちが神の好意を受け入れ、神の方法を尊重し、キリストを受け入れるなら、私たちは永遠の命を受けられるようになるでしょう。しかし、その神の方法を軽蔑し、無視し、神の用意してくださったキリストという方法を拒否し、神の好意を無にするようなら、聖書のいうように、その上に神の怒りがとどまることを知しましょう。



キリストは神からのプレゼント

進化論の誤り21: ファーブルはダーウィンの進化論に反対した

昆虫記を書いたファーブルは、ダーウィンの進化論には反対でした。本日はそのことを見ていきましょう。

ファーブルは彼の著書の昆虫記の中で、「進化論への一刺し」との皮肉たっぷりの一章も設け、狩りバチの獲物と適応力について、論じている。

進化論の説明のためにダーウィンが導入した「適応力」がもし本当にあるとするならば、なぜ動物は食物を限定するのか。ダーウィンの言う激しい生存競争に勝つためには何でも食べたほうが有利なのに、狩りバチは獲物をきちんと選んでいて、決まっている。なぜ昆虫にはそんな雑食性はないのか。進化論では、昆虫の食物選択を説明することはできないと、手厳しく、批判している。これには、生前、ダーウィン自身も、心中穏やかではなく、ファーブルの精密、綿密極まる観察と実験は頭痛の種だろうことは容易に想像できる。

捕食、生殖や育児にかかわる昆虫の本能に関するファーブルの40年近い観察の結果、本能の精妙さや堅実性を根本的にゆるがす(ダーウィン進化論的な)事実はなかったとして、全10巻完成(1910年)後に書かれた、つまり決定版とも言うべきハードカバー判の「序」には「特に、知性を持ち出して昆虫の行う多くの行為を説明出来ると信じた進化論は、その主張を少しも証明したとは見えない。本能の領域は我々のあらゆる学説が見逃している法則によって支配されているのだ」(『完訳ファーブル昆虫記』山田吉彦・林達夫訳、岩波文庫、1993年)と結論付けている。

ここから、ファーブルは「いくら昆虫の形態を分類学的に吟味しても昆虫の習性はわかるものではない」との理解に到達している(山田/林完訳第7巻)。むしろ、進化論の論理とは逆に、本能が形態を支配する

とさえ説明しているのだ。本能が昆虫の形を決め、本能が道具を使わせているというのだ。いわば、ダーウィン進化論では種の変化の方向は漸進的な自然選択説であるのに対し、ファーブル進化論は本能決定説であり、種は変化するとしても、漸進的ではないということになる。ファーブルが回想録を書こうと決意した動機は何か：それは、ダーウィンの進化論『種の起源』(1859年)の続編ともいうべきベストセラー『人間の由来』(1871年)を失業直後の48歳のころに読んで、これは誤りだと確信したからだろう。以来、それまでの観察結果を整理し、コツコツと原稿に書き溜めて、54歳の時に回想録第1巻として出版にこぎつけた。第1巻の終わりに、ジガバチの事例を進化論に懐疑的な証拠として紹介されているのも、そのせいだとなづける。全10巻の最初から疑問をいだいていた証左だろう。

上梓して確信を得たファーブルは、第2巻では、別の事例、つまりアラメジガバチの麻醉名人ぶりを紹介。さらに「進化論の一刺し」や「心理についての覚え書」を執筆することで、ますます、ダーウィン進化論は到底受け入れ難い誤りであると主張するようになった。



ファーブル

聖書と日本の風習「靴を脱ぐこと、洗足(足を洗うこと)」

聖書は日本人にとって馴染みのないものかも知れませんが、聖書の世界と日本文化は意外なほど共通点が多いのです。そのひとつを見ていきましょう。

外国の方が日本に来て、まず戸惑うことの一つは、靴を玄関で脱ぐことです。日本では土足で部屋に入ることは決してしません。海外に行ったことのある方では、寝室にまで土足で入ることに違和感を覚えた人も多いのではないでしょうか？日本人にとって靴を脱いで部屋に入ることは自然なことです。同じように旧約聖書で、「十戒」で知られているモーセが、神の山ホレブに入ったとき「あなたの足のくつを脱げ、あなたの立っている場所は、聖なる地である。」と神様から語られる箇所があります。大切な場所では、汚れた靴を脱ぐというところは日本と同じです。

また、時代劇などで、旅人が宿屋に入った時、宿屋の人が客の足を洗っているシーンを見たことがあるかもしれません。昔は履物は草鞋で、道も現在のように舗装されていないため、足はとても汚れてしまいました。そのため、宿屋の人が客の足を洗うことが常でした。不潔な足のまま、部屋に入ることはしなかったのです。日本では、足を洗う習慣があったのです。同じように、昔のイスラエルの民もサンダルのような履物をはいており、足が非常に汚れるので、足を綺麗に洗っていました。当時は奴隷の中でも最も身分の低い奴隷が足を洗う仕事をしていました。汚れた足で部屋に入らない、足を洗うという日本の習慣と聖書に書かれたイスラエルの習慣は同じなのです。

聖書では足を洗うという箇所がいくつかあります。有名なのは、主イエスが最後の晩餐をとる前に弟子の足を洗われた所です。

ヨハネ 13 : 3～5

イエスは、父が、万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が神から出て、神に行くことを知られ、夕食の席から立ち上がって、上着

を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまっとうられる手ぬぐいで、ふき始められた。

部屋に入る時は足を洗います。しかしその時、足を洗ってくれる人がおらず誰も足を洗おうとしませんでした。そこでイエスが足を洗われたのです。へりくだって足を洗いなさいと、弟子たちの足を洗われました。弟子たちと過ごす最後の晩餐の時にイエスはお手本を示されたのです。

また、足は地面の汚れが一番つきます。それは足がピッタリと地面についているからです。地につくこと、これは世の中のこと、世の罪や欲、悪い思いに、日々の生活の中で影響されていくということのを例えています。日々の生活の中で、主イエスのように聖く生きるのは非常に難しいのです。正しく歩みたいのに、その思いと裏腹に、世の罪の生活、欲望や悪い考えなどいろいろ雑多なものが、足についた泥のようについてきます。それをイエスに足を洗って頂いたように、毎日、聖くしてもらおうのです。また、互いの足の汚れを洗うように、謙遜になり、互いの過ちを許していくのです。そのことをイエスは足を洗うということを通して教えられたのです。足を洗うこと、靴を脱ぐ習慣がある日本人と聖書の世界は決して遠いものではないのです。



足を洗う

詩篇を読む:「神の言葉を愛する」

〔聖書箇所〕詩編119:97 **どんなにか私は、あなたのみおしえを愛しているでしょう。これが一日中、私の思いとなっています。**

詩編119編は、全詩編150編の中で最も長い箇所です。176節もあります。この詩編119編では、「みことば」と「あなたのことば」という言葉が何度も繰り返されています。どちらも神様の言葉という意味ですが、数えてみると、「みことば」は27回、「あなたのことば」は10回で計37回も出てくるのです。また、同じように神の言葉という意味で「おきて」21回、「みおしえ」24回、「さとし」19回、「戒め、」21回、「仰せ」21回、と出てきます。なぜここまで神の言葉について繰り返し語られているのでしょうか。それは私たちの人生に神の言葉が非常に大切なものだからです。では神の言葉とは何でしょう？神の言葉とは聖書の言葉のことをいいます。また、言葉というものは、人に強い影響を与えます。ある人にかけてもらった言葉に励まされたり、教えられたり、反対に傷ついたりした経験はないでしょうか？それだけ言葉には大きな力があるのです。でも人の言葉は、各時代の常識や価値観によって変化していきます。流行が、毎年くるくると変わるように、人の心も変わりやすく、安定がありません。人の言葉や思いは、本当に移ろいやすいのです。そんな不安定な人の言葉より、変わらないものがあります。力があり信頼できるものがあります。それは神の言葉です。

ルカ 21:33 「この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは、決して滅びることがありません。」

イザヤ40:6~8 「すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。主のいぶきが、その上にふくと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに民は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。だが、私達の神のことばは、永遠に立つ」

とあるように、人の一生は、草のようにあっという間に終わりますが、神ご自身が語られ

た言葉は変わることがありません。たとえ天地はひっくりかえろうとも神の言葉は変わることがないのです。また、聖書のことばとはイエスのことを示しています。

ヨハネ1:1~4 「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは、神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、このかたによって、造られた。この方によらずにできたものは、一つもない。この方に、いのちがあった。このいのちは人の光であった。」

とあるように、イエス自身が神の言葉です。そして神の言葉は、私達のいのちに直結しています。また、聖書の言葉はイエス自身の事を証し、預言しているとあります。

ヨハネ5:39に「あなた方は、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。」とありますように、永遠のいのちの道がイエスの内にあるのです。神の言葉、イエスに従うことが、どれほど素晴らしいのかは計り知れません。決して揺るぐことのない神の言葉に信頼するならば、死の恐怖ではなく、永遠のいのちの希望が与えられます。

119:105 あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

むなしく変化していく、世の中の言葉ではなく、神の言葉を求めて頼るならば、人生が大きく変わります。人の言葉に翻弄されたむなしい生き方ではなく、神の言葉に保障された、永遠のいのちに至るのです。幸いな人生の為には、神様の言葉を愛していくことが一番です。



神の言葉、聖書

キリストを信じた体験談：知恵

私はキリストを救い主と信じて30年近くになりますが、今思うと信じて本当によかったと思っています。信じるビフォーとアフターでは180度人生が変わりました。では、どのようにしてキリストに出会ったのかをお話したいと思います。

きっかけは、私の通っていた大学近くの英会話カフェでした。外国人の宣教師が経営していたのです。そのころの私は、引きこもりで、対人恐怖症に苦しんでいました。学校にも行くことができませんでしたが、宣教師たちが心から私の来店を喜んでくれたので、なんとかそこには行くことができたのです。そして、あることをきっかけにキリストを受入れる祈りをしました。

しかし、信じた後も私の心の苦しみは増すばかりでした。どうすることもできずに、ひたすら神様に祈りました。「どうしてこんなに生きるのが苦しいの？死んでしまいたい！」私には聖書の知識はありませんでしたが、藁にもすがる思いで、ただ「助けて！」と祈り続けたのです。

悔い改めよ。天の国は近づいた。(マタイ 3:2)

すると心にこんな思いが浮かんできました。「それは、あなたに罪があるからです。その罪を悔い改めなさい。特に偶像礼拝を悔い改めなさい。」それは、神様からの語りかけでした。偶像礼拝(ぐうぞうらいはい)とはキリスト以外のものを神様とすることで、実は「モーセの十戒」の一番初めに書いてある重い罪なのです。

あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。(出エジプト 20:3)

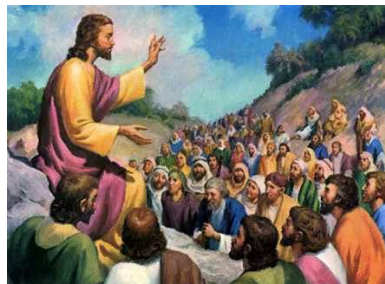
それで私は小さい頃からやっていたお正月の神社仏閣参りや、太陽を始めとする自然崇拜を悔い改めました。「主よ。知らないこととはいえ、あなた以外の神をお参りしていた

ことを赦してください。」さらに、宗教だけではなく、「仕事」「知識」「努力」「会社」「家族」「リーダー」「自分自身」など、神様とは思っていないけど、神様より頼りにしているものは偶像だということで、一つ一つ悔い改めていきました。

このような祈りが一週間ほど続いたある日のことです。突然、目には見えないけれどイエスキリストがすぐそばにいますと感じました。そして「あなたはもう大丈夫、赦されています。」と心に語りかけてくださったのです。その言葉には今まで感じたことのない素晴らしい愛がこもっていました。私は、神様の子どもとして、心の底から生まれ変わったと感じたのです。

それから30年、主イエスは、私の人生をすばらしく導いてくださいました。例えば、対人恐怖症だった私が今、得意とする仕事は営業職です。逆転勝利ですね。何より生きることが楽しくなりました。ハレルヤ！そのほかにもたくさんの恵みをいただきましたが、それは別の機会にしましょう。もちろん大変なこともたくさんありましたが、主イエスはいつも愛と喜び、平安の中で私を助け、問題を解決してくださいました。その愛がどんなに素晴らしいかは、言葉では表しようがありません。皆様もぜひ、実際に味わっていただきたいと思います。

「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」(1コリント 2:9)



悔い改めよ。天の国は近づいた

聖書に関する偉人のことば：内村鑑三

内村 鑑三：日本のキリスト教思想家・文学者・伝道者・聖書学者。福音主義信仰と時事社会批判に基づく日本独自のいわゆる無教会主義を唱えた。「代表的日本人」の著者でもある。



:

「真理を証するもの三つあり、すなわち天然と人と聖書」

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.comもしくはfax:020-4623-5255もしくはtel:042-364-2327へ連絡ください。

郵便番号:

住所:

名前:

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-364-2327) 1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:tr



見本

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>